

統一戦線戦術の意義

この抜萃は「4-36 閉ざされた会場にはいりこむ」と同じ

——労働者のあいだで多数を獲得するために——

……………共産主義者は、自分の狭い殻に閉じこもることなく、多少の犠牲にもためらわずに、あらゆる新しい困難な事業の初期には避けられない誤りをおそれることなく、ブルジョアジーの代表者が労働者に働きかけている閉ざされた会場にはいりこむように行動することを、学ばなければならない。これを理解しながら、これを学びとりたがらない共産主義者には、労働者のあいだで多数者を獲得できるという望みはなく、すくなくとも、彼らはこのような多数者を獲得する仕事を困難にし、おくらせる。だが、こういうことは、共産主義者には、また労働者革命のあらゆる真の支持者には、まったくゆるしえないことである。

……………第二および第二半インタナショナルの代表にとって統一戦線が必要なのは、われわれに度はずれた譲歩をさせてわれわれをよわめようとのぞんでいるからである。彼らは、入場料をなにもはらわずに、われわれ共産主義者の会場にはいりこみたがっており、統一戦線戦術によって、改良主義的戦術が正しく革命的戦術が誤っているということを労働者に納得させたがっている。われわれに統一戦線が必要なのは、われわれがその反対のことを労働者に納得させたがっているからである。われわれは、わが共産主義代表のおかした誤りについて、それをおかした当人の責任、それをおかした党の責任を問いはするが、これらの誤りの実例に学び、今後それをくりかえさせないように努力する。しかしどんなにいいでも、われわれは、わが共産主義者の誤りを、全世界にわたって資本の攻撃を受けているプロレタリアートの大衆のせいにするのではないであろう。これらの大衆が資本とたたかうのを援助するために、彼らが国際経済全体と国際政治全体における二つの戦線の「巧妙なしくみ」を理解するのをたすけるために、われわれは統一戦線の戦術を採用したのであり、またそれを最後まで遂行するであろう。 注) ……………は青山の略

1922年4月9日

第33巻『われわれは払いすぎた』P344

電話による口述 『プラウダ』第81号、1922年4月11日 署名——レーニン